

はあとふる ふくしま

ホットな
福祉情報誌

2022

1月

No.302

特集

年齢やキャリアなどにとらわれない
多様な人材が輝ける職場づくりを

未来へつなごう“ふくしま”から

食を通じて、誰もが活躍できる喜びや誇りを共有したい

今月の
表紙



障がいのある人もない人も、それぞれの特性を理解し合いながら一緒に働くことで、誰もが参加できる社会づくりを目指しています。
(カフェ&デリ マルク)

目の不自由な方のために「はあとふる ふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。



「はあとふる・ふくしま」の作成経費の一部に、共同募金配分金および特別賛助会員の寄付金を使用しています。



年齢やキャリアなどにとらわれない多様な人材が輝ける職場づくりを



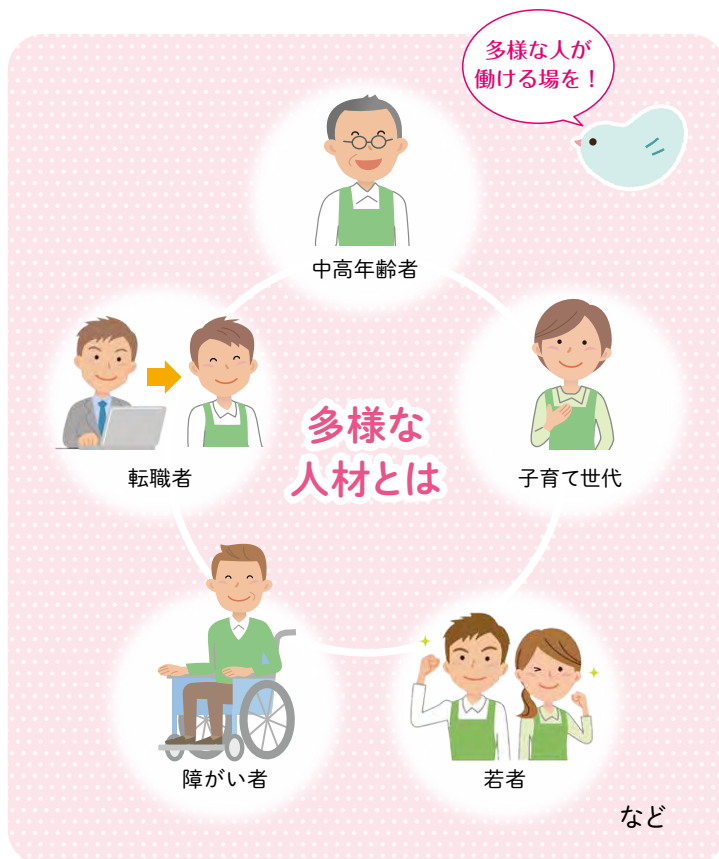
今後ますます介護職員が必要とされる中、資格や経験がない方をはじめ、多様な人材を幅広く雇用し、福祉・介護サービスを安定的・継続的に提供していくことが求められています。今回は多様な人材がイキイキと働ける職場づくりを紹介します。



※写真はイメージです。

多様な人材に目を向ける

人口減少と少子高齢化が進む中、高齢者人口がピークを迎えるとされる2040年には約69万人の介護職員が不足すると言われています。こうした背景から、福祉・介護を担う多様な人材の確保が進められており、国は、「中高年齢者」「子育て世代」「他業種からの転職者」「障がい者」「若者」などを挙げ、福祉の業界への参入促進



を目指しています。また昨今のコロナ禍による失業者の増加や人口減少に伴う労働人口の減少など、社会環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するためにも、多様な人材の受け入れ体制の構築を進めていく必要があります。今後は年齢や性別、経験、キャリア、障がいの有無などに関わらず、福祉の仕事に関心をもって理解し、共感してくれる人を増やすこと、そうした方を受け入れて育てていくことがより重要になってくると考えられます。

図1

取り組むべき **3** つの目標

- ① 多様な人材が活躍できる福祉現場を実現します**
福祉人材のすそ野の拡大をすすめ、就業条件の見直しや多様性を受け入れる職場づくりに取り組み、他業種の人材や外国人、高齢者、障害者など、多様な人材が活躍できる福祉現場を実現します。
- ② 福祉人材育成の体制整備を図ります**
職員が自らの仕事にやりがいをもち、資質の向上に取り組んでいくために、研修体系の整備、処遇改善や資格取得支援、複数法人の連携・協働によるキャリアアップの仕組みづくりなど、福祉人材育成の体制整備を図ります。
- ③ 働きやすく、働き続けられる職場をつくります**
職場の人間関係に配慮し、マネジメント機能やスーパービジョン機能を高めるとともに、ワーク・ライフ・バランスを図り、ハラスメント等のない、誰もが働きやすく、働き続けられる職場をつくります。

全国的な福祉人材の確保・育成・定着への取り組み

こうした状況を踏まえて全国社会福祉協議会・政策委員会(以下…全社協)では、福祉人材の確保・育成・定着に向けて、福祉関係者が一体となって取り組んでいくことが必要であるとして、令和3年3月に「地域を支える福祉人材確保・育成・定着の取組方策2021」を公表しました。この取組

方策は2016年から毎年策定しているもので、近年の福祉分野における人材確保をめぐる動向・課題を踏まえ、「①多様な人材が活躍できる福祉現場の実現、②福祉人材育成の体制整備、③働きやすく、働き続けられる職場づくり」といった3つの目標(図1)を定め、実践事例とともに示しています。全社協では、全国の法人(福祉施設・事業所)や社会福祉協議会において、この取組方策をもとにして福祉で

図2

多様な人材の活躍による効果

みんなが働きやすくなる



長く働く人が増える

利用者の満足度があがる



多様性を受け入れ、学べる

超勤時間の短縮
休暇取得率の向上
など



多様な人材が活躍していくために

働く人の確保・育成・定着のための環境を整えていくことが、支援を必要とする人々を支えていくことにつながるかと考えています。

取組方策2021では、多様な人材を受け入れるために、法人の業務やサービス提供体制を分析・整理し、業務の見直しを行うなかで高齢者や障がい者への就労機会の提供、外国人人材の受入れ、生活困窮者等の就労への協力、さらに地域住民やボランティアの積極的な受け入れを行い、地域共生社

会づくりに寄与していくとしています。また、ひとり親や母子生活支援施設に入所する母親、児童養護施設等の退所児童など福祉施設・事業所の利用者や、家庭の事情等により短時間勤務を希望する方、さらにはコロナ禍による失業者など、様々な人材を福祉施設・事業所において雇用していくことは、多様な人材を確保していく上で重要であり、図2のような効果も期待されています。次ページでは、県内の「多様な人材が活躍する福祉現場」における取組みを紹介します。

運営サポーター制度で雇用の幅を広げ 多様な人材が活躍できる場を

医療法人 医和生会（いわき市）



人事部 人事課
いづか たけひこ
課長 飯塚 大輔さん

高校生という若者の雇用で 新たな風を施設に

3年ほど前から医和生会では介護の資格がなくても働ける運営サポーター（介護助手）制度を取り入れて、介護職がより介護に集中できるような環境づくりに努めてきました。「介護に興味がある人の間口を広げることで、介護の世界にチャレンジしてくれる人が1人でも増えたらという思いで立ち上げました」と話すのは人事課課長の飯塚大輔さん。受け入れにあたっては、各部署でどんな業務を担当してもらうかという業務の洗い出しを行い、まずは介護現場を体験してほしいとの考えから、介護助手の仕事

のみを行うというルールを徹底したとのこと。

現在、7人の運営サポーターのうち、2人が高校生です。当初、高校生の雇用は予定していなかったのですが、少しでも介護の仕事の魅力を知ってもらえたらと採用に至りました。「高校生の起用によって、職員が丁寧に業務を伝える文化ができてきました。また運営サポーター制度が

できたことで、介護職が本来の職に集中できること、利用者に関わる時間が増えたことはプラスの効果だと考えています」と飯塚さんは話します。

介護の「仕事を教えるのではなく 介護の「楽しさ」を伝えたい

高校生の運営サポーターは卒業後に医和生会への就職が決まっているなど、運営サポーターから介護職員として働く方が増えており、制度の意義が高まっていると言います。指導の際は、介護の仕事を教えるのではなく、介護の楽しさを伝えることを心がけているという飯塚さん。その言

葉通り、丁寧な指導体制がサポーターとしてのやりがい等につながっていると考えられます。「業務の1つ1つに必ず意味があり、その意味のすべてが利用者さんにつながっています。それを理解することがやりがいの創出、ひいては雇用の継続につながっていくと考えています」と飯塚さん。最近ではインスタグラムを始めるなど広報活動にも力を入れているといい、今後もうこうしたことを地道に続けて、少しでも多くの人が介護業界に興味をもてるような働きかけをしていきたいと、笑顔で話してくれました。



運営サポーター
高校3年生 佐藤悠斗さん

Q：応募のきっかけは何ですか？

A：高校のサークル活動の一環で、慰問のため介護施設へ行きました。そこで職員の方の利用者さんに対するさりげない気遣いを見て介護に興味を持ちました。その後、求人サイトで運営サポーターの募集を見つけて、介護の仕事を間近で見られる良いチャンスだと思い応募しました。

Q：勤務形態と現在の業務を 教えてください。

A：毎週土日の10時から17時30分まで働いています。現在は利用者のベッドメイキングや洗濯、浴室清掃や食事の配膳、消毒作業を行っています。ここで教えてもらった洗濯の仕方を家で実践するなど、経験が普段の生活にも活かされています。

Q：仕事のやりがいや今後の目標は 何ですか？

A：職員の方から「ありがとう」と言ってもらえることがやりがいになっています。今後は自分から率先して動いて、職員の方から頼られる存在になりたいです。



事例 2

介護支援課の設置で
多様な働き方で活躍できる支援を

社会福祉法人いわせ長寿会
特別養護老人ホーム いわせ長寿苑(須賀川市)



部長 関根 徳雄さん(右)
介護支援課長 萩谷 実弥子さん(中央)
介護職員 青木 佐知子さん(左)

多様な働き方を可能にする
介護支援課を新設

平成28年度に社会福祉法が改正されたことで、いわせ長寿会では大きな組織改革が行われました。職員それぞれの事情をふまえながら、多様な働き方を実現するために施設としてできることを考えた結果、施設内に派遣会社のような組織・介護支援課(以下…支援課)を導入することにしました。支援課は、子育てや親の介護等で日勤のみ働ける職員を配置すること

で、他部署で人員が不足する日勤帯の時間にピンポイントに職員を派遣することができ、職員の業務を職員がサポートするという新しいスタイルの部署です。「最初は派遣のオーダー表の提出の仕方など、仕組みを確立することに苦労しました」と話すのは部長の関根徳雄さん。特養のユニットから月単位でいつどの時間に入ってもらいたいのかというオーダー表を提出してもらい、週単位で精査して支援課の職員を派遣しています。「今まではユニットの利用者さんを20人ほど把握していればよかったのですが、支援課は全てのユニットのほか、訪問介護やデイサービスを回るのので、100人ほどの利用者さんを把握しなければいけません。またそれぞれのやり方を覚えなさいといけないことなど、最初はとて大変でした」と話すのは、立ち上げから支援課に所属する青木佐知子さん。しかし、1つのユニットの良いところを他のユ

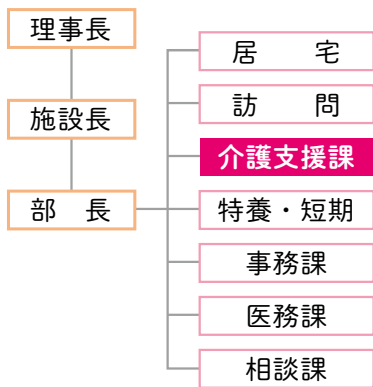
ニットで共有したり、各利用者さんの言葉では伝わりにくい技術的な部分を各ユニットでサポートしたりと、支援課の存在意義は高まっていると言います。

職員が気持ちよく介護できる
環境を整備することが大事

毎年、支援課がどの部署にどのくらい時間をかけているか、どのくらい活用されているのかなどを検証しており、数字的にも支援課の必要性が顕著に現れています。

「ユニットの職員から、支援課さんがいると助かるという声をもらえることがやりがいにつながっています」と話すのは支援課を取りまとめる課長の萩谷実弥子さん。様々なところを回るので、新鮮な気持ちで利用者さ

●組織図



介護支援課での打ち合わせの様子

んに接することができると言います。「支援課の任務は、ユニットの職員が思うようなケアができるように基礎の部分を支えることだと考えています。職員が余裕を持って働ける環境があれば、それが結果的に質の高いケアにつながっていくと思います。今後利用者さんの笑顔が1つでも多く見られるような環境づくりに力を入れていきたいです」と萩谷さん。関根さんも「あらゆる職員の状況に、施設側はいつでも様々な選択肢で対応できる体制を整えることが大切だと考えています。そして職員に長く働いてもらうためにはどんな環境をつくってあげれば良いのかを模索しながら、今後も現場の職員が気持ちよく介護できる環境を整えていきたいと思っています」と話してくれました。

未来へ
つなごう
“ふくしま”
から

喜びや誇りを共有したい
食を通じて、誰もが活躍できる

◆就労継続支援A型事業所 カフェ&デリマルク



▲初めて来店したお客様はスタッフが多いことに驚くそうですが、店のコンセプトを理解していただき、今ではたくさんの方の常連客が。この日も常連客が開店とともに入店していました。

◀健康づくりに役立つ栄養/バランスの取れた食事を提供する「スマートミール」認証(中食部門)を県内で初めて取得。

■取材協力

キープオンカンパニー 株式会社
カフェ&デリ マルク
会津若松市一箕町亀賀字川西 39-4
TEL0242-36-7710
<https://ameblo.jp/marc0926/>



働く経験が、就労への
更なるモチベーションに

「うらつしゃいませー!」。白を基調とした明るい店内に、元気な声が響きます。会津大学近くに2014年オープンした「カフェ&デリマルク」は、一般企業等での就労が難しい障がいがある方たちが働く就労継続支援A型事業所。地元食材を使用したヘルシーなお惣菜の販売や店内での飲食サービスを提供し、人気メニューは早々に売り切れてしまうこともある常連客も多いお店です。

「A型事業所としてこのカフェをはじめるとは、雇用契約を設立したのは、雇用契約を結び、利用者が会社員として賃金を得られること、そして社会の一員としての自負を持ちやすいというメリットがあると思うからです」と代表取締役の庄司操さん。一般企業での就労を目指す人にとって、労働に見合った賃金を得ながら一般就労に近い内容で働くことで、モチベー



キープオンカンパニー株式会社 代表取締役の庄司操さん(写真右)と、管理栄養士の庄司梓さん。

ションや就労への意欲も高まると話します。

近くには県立会津支援学校があり、保護者や教師の方々に働く現場を見てもらえるのもこの場所を選んだ理由の一つ。取材当日実習に来ていた生徒さんは、「洗いや野菜の切り方を教えてもらいました。いろんな形に切るのは難しかったけど、楽しく働くことができました」と笑顔で話していました。

健康的なメニューを通して
店の価値を高めていきたい

カフェ全体の管理をしてい



赤い羽根 でささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 (福島県総合社会福祉センター内)
TEL (024) 522-0822 FAX (024) 528-1234
メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>



福島県共同募金会にお寄せいただいた赤い羽根共同募金は、福島県内の福祉活動を支援するために役立てられています。今回は、みなさまの温かいご寄付により行われた活動をご紹介します。



特定非営利活動法人にじの会 (福島市)

(助成事業名：ボランティア養成事業)

視覚障がいがある方に、
1冊でも多くの本をお届けできるように

私たち「にじの会」は、視覚障がいの方の社会参加を支援するために種々の活動を行っているNPO法人です。



養成講座の様子

活動の柱に、ご希望の資料や今話題の本などを点訳・音訳してお届けする活動があります。そのためには、点訳・音訳などの活動を行うボランティアを継続して養成することがとても大切です。

このたび、県民の皆さまの貴重な募金を助成いただきましたことにより、パソコン点訳の養成講座をはじめ、音訳ボランティアの研修なども行うことができました。継続して研修を行いながら、早速、点訳作業などにも熱心に取り組んでいるところです。

これからも、1冊でも多くの本、ご希望される資料などをお届けできるよう、会員一丸となって頑張っていきたいと思っております。寄付者の善意が込められた助成を受けられましたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

〈お知らせ〉

令和3年度赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金2」被災地住民支え合い活動助成事業は、下記期日をもって応募受付を終了いたします。

応募受付終了予定日 令和4年1月31日(月)

る庄司梓^{しほ}さんは、「A型事業所を作ろう」としていた社長の思いと、私が考えていた健康的な料理を提供したいという思いを実現したのがマルクです」とオープンのきっかけを話します。「毎日食べて健康になるようなもの、ワクワクするおいしいものの提供を目指して、「スマートミール」認証のほか、会津野菜を用いたスムーズージーやポタージュの開発などに取り組んで

います。このチャレンジは、共に働くスタッフの自信や誇りにもつながっています。現在は約10人のスタッフが、早番、遅番など4時間半単位の勤務体系で働いています。時間帯によって仕込みや配膳など仕事内容が変わりますが、「接客が苦手な人は厨房を中心にするなど配慮しています」と梓さん。臨機応変な対応ができるようにとあえてマニュアルは設けず、その人に合わせた教え方を心掛けてい

慌てないでゆっくりやること、常に笑顔でいることを心掛けています。レジの仕事は難しいですが、お客様に「ありがとう」と言われるのがうれしいです。

会津支援学校の実習生も受け入れており、それがきっかけで入社したスタッフや、ここでの経験を経て一般企業への就労を実現した人もいます。



るそうです。働いて3年目のスタッフは「慣れるまでは大変でしたが、経験を積む中で覚えていくことができました。できることが増えて楽しいです」と話していました。「スタッフ同士、お互いを自然にフォローしあうなど、多様性を自然と受け入れていくように思います」と梓さん。一人ひとりが尊重され、活躍できる喜びや誇りに満ちた店内には、明るく柔らかな空気が流れています。

県社協からのお知らせ

第75回福島県社会福祉大会が開催されました

去る11月5日(金)に第75回福島県社会福祉大会が相馬市民会館において開催されました。今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策により、参加対象を受賞者とその引率者のみとさせていただいたため、参加者は全体で約250人となりました。記念講演では、福島テレビの専属気象予報士である^{さいとうやすのり}斎藤恭紀氏より「みんなとあなたのいのちを守るために～警戒レベルを読み解く力を～」と題してお話をいただきました。式典では、県知事の表彰・感謝505個人・団体、大会会長の表彰・感謝227個人・団体、県社会福祉協議会会長の表彰・感謝79個人・団体、赤い羽根共募運動スローガン受賞者9名の方々に、表彰状の授与及び感謝状の贈呈が行われました。また、第29回目となる^{わかまつやすこ}瓜生若子賞は、若松保子氏と精神保健福祉ボランティア「トライアングルの会」が受賞されました(活動の詳細は12月号『未来へつなごう“ふくしま”から』で紹介)。その後、大会宣言において、私たち社会福祉関係者が、県民の理解と参加・協力のもと、誰もが安心して暮らすことのできる地域共生社会の実現に努めていくことを参加者全員で誓い、来年の二本松市で開催予定の第76回大会に引き継ぐこととなりました。



クロスワードにチャレンジ!

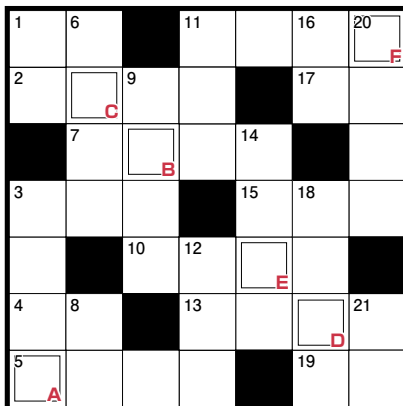
* 正解者から抽選で3名にプレゼント[🎁]が当たる!

ヨコのカギ

- ① 昔話で権兵衛さんを吊り下げて飛んだ鳥
- ② プリンセス
- ③ 水素と酸素から水ができるような化学反応のこと
- ④ ○○自慢。○○仏。○○元過ぎれば熱さを忘れる
- ⑤ 商店街の肉屋さんで買い食いたい
- ⑦ 福島県の中で元号と同名の市町村はココだけ
- ⑩ 離れて暮らす家族にお金や品物を……
- ⑪ 走ると失格になる陸上競技
- ⑬ まつ毛に塗る化粧品
- ⑮ 天かすはタヌキ、油揚げはキツネ、では卵は?
- ⑰ 治りかけの病人などが、ためしに歩いてみること
- ⑲ 地図記号で小中学校を表す漢字

タテのカギ

- ① ○○にタテ⑧を塗る。○○から火が出る
- ③ サケはイクラ、ボラはカラスミ、ではニシンは?
- ⑥ 子宝祈願したおかげで授かった。時代の○○○○
- ⑧ 田んぼの土
- ⑨ ⇄部下
- ⑪ 昨日と明日の間
- ⑫ グリコのキャラメルに付いてます
- ⑭ 蠟(ロウ)を英語で言うと
- ⑮ ベコ
- ⑱ この年輪を数えると樹齢がわかります
- ⑳ モナ・リザの表情
- ㉑ 『名探偵コナン』工藤新一の幼なじみで恋人



●全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

応募方法

ハガキにパズルの答えと①住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話番号、業種②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、下記までご応募ください。

締切

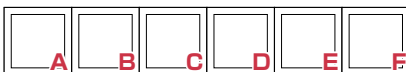
令和4年2月15日(火)

宛先

〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。

※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。



今月の正解者の中から抽選で3名様に、社会福祉法人ころん(泉崎村・就労継続支援B型)「パウンドケーキ&クッキーのセット」をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。



多数のご応募
ありがとうございました。



12月号の正解

「協議体(キョウギタイ)」

編集後記

皆さんの「介護職のイメージ」とはどんなものでしょうか? おむつを替え? 入浴介助? 私は利用者さんの生活を支援するその先に、「その方がどう生きたいかをお手伝いする仕事」だと思います。そんな介護の現場で真摯に働く皆さんの姿を、はあとふるを通して、少しでもお伝えできればと考えています。(人材研修課 渡部智子)

11月号への読者のおたより

・米寿のお祝い金等を届けに来て下さったりする民生委員の方がいらっしゃるの身近に感じます。協力員も増えるように(知らない人も多い)もっとPRした方がいいと思います。(62才 主婦)

・民生委員さんのなり手不足をよく聞きます。役割も重要で、協力員などを設置し、地域作りがより活発になればと思います。(58才 福祉施設職員)

・一人ひとりが元気で生活できる社会を目指しています。(72才 民生委員)